

# RadioDays



## ラジオデイズ

声には、  
人の体温があり物語がある

月刊「ラジオデイズ」6月号 (通巻第25号)

2009年5月28日発行

【発行人】赤塚祐一郎

【編集人】大森美知子

【発行所】株式会社ラジオカフェ

東京都新宿区新宿1-6-5 シガラキビル6F

Email: info@radiodays.jp FAX: 03-5356-8281

http://www.radiodays.jp

June Edition

2009, vol.25

Free of charge

6

## 陋巷に吹く風のような活動家

この人の声が聴きたい◎6月

湯浅誠さん

(自立生活サポートセンター  
もやい事務局長)



今日日本で最も注目を浴びている社会運動家である。照準しているのは、貧困問題。この人の代表的な著作である『反貧困』(岩波新書)は、今この時代の深部で何が進行しているのかを鮮明に描き出した名著となり、多くの読者を獲得した。しかし、かれは作家でも評論家でもなく「現場」を重視するひとりの活動家であると自らを規定している。そこには70

—80年代を席卷した活動家の暴力的で押し付けがましいイメージもなければ、難しい思想問題をこね回すような術いも気負いもない。工場や建設現場の労働者が、目の前の仕事を淡々と片付けていくように、貧困の「現場」に立ち、次々と送られてくる問題を、ひとつひとつ片付けていくといった雰囲気や滲ませる。その風貌は白皙の美青年といったところだが、その声やしぐさ、さらに言えばその思想から漂うのは、陋巷に吹く風のような透明感である。(笑顔からのぞく白い歯に浮き出た煙草のヤニは、かれがただの草食系やおとこでないことを告げているが)

いずれにせよ、かれは、これまででないような新しい時代の新しい社会運動のリーダーのモデルを、自らその瘦身に体現し、多くの人々がかれの一挙手一投足に注目し、希望をみたいと思っていることだけは確かなことだ。さりげなく見えるこのスタイルを維持するのは、実際には、よく凡人にとりうるどころのものではないだろう。ただ、自らが引き受けているミッションの重さを、何か別のものに交換する要諦を自然に身につけているとい

うべきだろうか。いやいや、そんなことはあるまい。どこかで、誰もが突き当たる挫折や屈折を経て、現在の自分を発見したはずである。そこでこう伺ってみた。「ボランティア的な活動をしていることにある種の疚しさを感じませんか」「いや、ぼくは兄貴が障害者なんです。そのために家に様々なボランティアの方が集まってきたんですよ。現場労働者だとか、プロレスラーだとか。だから格差や貧困だけではなく、社会問題というものが自然に身近なものとして受け容れられる環境だったんですよ。」なるほど。湯浅誠にとつての社会運動は、たとえば町工場に生れたものにとつての零細企業問題(私の場合がそうなのだが)が身近な問題であったり、散髪屋や風呂屋の倅が親の代が築いた店舗経営について考えたりするのと同じような、なじみのある土地勘のはたらく事項なのである。

「で、実際に運動をはじめてみて大変だったんじゃないですか」「いや、それが面白いんですよ、これが。だからこを続けられるし、やりがいもあるんだと思いますよ」

自分がコミットしている社会運動に対して、正義感や義務感を表明する人間は多いだろうが、「面白い」といえる人間は多くはない。そして、ここにこそ湯浅誠という社会活動家がある。これまででない「新しい」活動家である由縁があり、多くの人々が尊敬の念だけではなく、ある種の羨望を持ってかれを注視する理由なのではあるまいか。

(ラジオデイズ・プロデューサー 平川克美)

ラジオデイズは、文芸・対話・話芸を三本の柱に、声のもつ魅力に特化した音声コンテンツを制作し、ダウンロード販売するWebサイトです。

飘逸で含蓄のある随筆、瑞々しい感性の横溢する詩歌や小説の朗読、個性的な対話者たちの真摯な言葉の応酬から生まれる知的交歓、粹と人情の落語や講談などなど、大人のお楽しみにたえる魅力的なコンテンツが満載です。

### ただいま入会随時受付中!

会員(登録無料)にならると、期間限定の無料コンテンツがお楽しみいただけます。サイトでは、声の魅力を凝縮したコンテンツのすべてを試聴できるほか、演者のプロフィールやコラムなど読み応えも十分です。どうぞお立ち寄りを!

<http://www.radiodays.jp>

### 〈対話・放談〉

作家・雨宮処凛氏のガチンコ対談シリーズ『生き延びる道標』、人気メルマガでおなじみ、田中宇氏のニューズ解説『世界はこう読め!』、人気コラジ子さんと小田嶋隆氏が世相を斬る『グラフィカルトーク』、大貫妙子さんと加藤和彦さんなど、ミュージシャンに話を伺う『Music Talk』が好評。さらに、慶應丸の内シティキャンパス(慶應MC)開催の『夕学』のなかから、各分野の第一線で活躍する研究者・経営者・文化人・ジャーナリスト等による講演を厳選してお届けしています。

### 〈文芸〉

作家の関川夏央さん、小沢昭一さん、詩人の清水哲男さんなど多彩な解説者を迎えた『声のエッセイ』コレクションが評判。また、『声の詩集』シリーズからは、女優馬九せつこさんの朗読、詩人の正津勉氏がナビゲートする『詩人の愛』I・IIをお届け中。女優有馬稲子さん朗読の『水仙』も登場。さらに本邦初となる落語家・入船亭扇辰師、柳家三三師朗読による江戸弁で聞く落語調ゴーゴリ『外套』『鼻』も発売。詩人の小池昌代さんのコラム『言問い小路』も好評連載中。

### 〈話芸〉

ラジオデイズ収録の新鮮なオリジナル音源二百六十本余をお届け中。時代に磨かれた古典を自家楽籠中に現代に演じきる噺家たち。そして、時代の流れから湧き出た、かつて語られたことのない新作に筆を削る噺家たち。ライブ音源だけに一期一会の噺に出会えます。不定期ですがラジオデイズイチオシの噺家さんの演目を無料ダウンロードにて提供していきますので、毎日覗きにきてみてください。まずは、試聴ボタンを。

# オリンパスシンクする寄席

「日時」6月17日(金)午後7時開演(午後6時半開場)  
「場所」お江戸日本橋亭

すべての落語は新作として生まれ、数多くの噺家によって高座にかけられ、生き残ったものが古典になる……。それを自家薬籠中に演じざる現代の噺家たち！ 人情の機微に触れ、免疫力増進の涙と笑いの宝庫、至福の話芸の真剣勝負。

## 五街道雲助

(こかいしゅう・くもすけ)

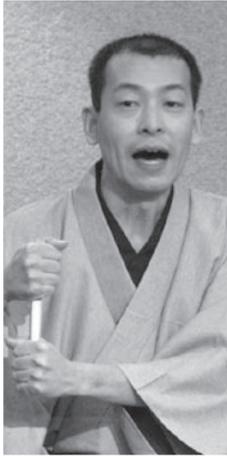
十代目金原幸馬生に入門。昭和四七年、二ツ目昇進と同時に「五街道雲助」と改名。五六年、真打昇進。いまは演じ手の少なくなった圓朝噺、廓噺、怪談噺にも積極的に取り組み実力派の大看板であり、聴衆を惹きこむ独特の語り口にも熱狂的なファンが多い。



## 鈴々舎わか馬

(れいれいしや・わかば)

鈴々舎馬桜に入門。平成十二年、二ツ目昇進。平成十八年より鈴々舎馬風門下。上品で軽い持ち味に加え、最近では歌やものまねを織り込んだ高座で現在成長著しい二ツ目。「千早振る」など細部を膨らませた噺に定評があり、ほんわかした雰囲気落語の世界に溶け込んでいる。



# 明烏い話

連載第26回

本田久作

グループの長になるには必要な条件があると思われている。たとえばリーダーシップとか責任感とかそういうものだ。飲んだくれで女好きで約束を守らない男をグループの長に選ぶ団体は存在しない。私を知る限り、その唯一の例外が落語協会である。何代目の会長か知らないが、落語協会は一時期志ん生を会長に据えた。言っておくがあの志ん生だ。普通の人間なら、少なくとも志ん生の芸の片鱗にでも接したことのある人であれば、志ん生が船長を務める船には乗りたくないだろう。落語協会は当時はまだ法人にはなっておらず、ただの親睦団体であったとはいえず、それでも一応は協会に所属する噺家たちのさまざまな意見を調整する機関である。そのトップに志ん生が選ばれたのだ。あの志ん生にそんなことができるのかと疑うのが常識であろう。何しろその頃すでに志ん生は自分の独演会をすっぱかすという離れ業を成し遂げている。それなのに当時の落語協会に所属する噺家たちは志ん生を会長に選んだのだ。こういう人事は落語協会以外では絶対にある得ない。結果として志ん生は周囲の者が驚くほど見事な会長ぶりを見せたらしいが、それはたまたまそうだったというだけであって(というかたぶん奇跡が起きたのだろう)、あの志ん生のキャラクターから考えれば会長職を務めるのはどう考えても無理である。その無理を通してまで志ん生を会長に選んだのは、落語協会がよい意味でしよせん噺家の集団であったからだ。噺家たちは組織運営能力長けている人よりも、

噺家としてすぐれている人の方をどうしても偉いと評価してしまう。それは当たり前のことだ。何故なら彼らは落語協会の協会員である前に一人の噺家だからだ。これは非常に美しい価値観である。再び船のたとえを持ち出せば、彼らは航海の技術を持っている人よりも、この人は99%の確率で航海のことをまるで知らないだろうとわかりつつ、それでも自分たちにとつてただただ一番格好いい人を船長に選んだのである。これほど素敵な発想はない。

ならば、談志を会長にしてやってもよかつたのではないか、とも私は思うのだ。円生が協会を出た時の顛末を何冊かの本で読む限りでは、普通の感覚では談志はただの卑怯者且つ権力主義者でしかないが、それはそれでいいと私は思う。志ん生ですら会長職がとまつたのだから、談志でもできただろうというのではない。志ん生は会長職を遂行するに当たつて何の考えもなかつただろうが、談志が会長になりたかった時は談志なりのビジョンに満ちていた。それをやらせてやればよかったのだ。協会が割れた時の最大の争点となつた真打ち問題でも、円生は会長の時に実力主義をとり、小さんは年功序列を採用した。このまったく相反することが同じ協会で行われたのであれば、もう一つ違つたやり方を談志が何年かやつたところで大勢にそれほどの影響があるとは思えない。少なくとも談志が何をやるかが傍観者の私には何の損もない。今、談志は立川流の天皇の位置にいるから、まあやりたい放題である。だが、もしも談志を落語協会の会長に据えていたなら、おそらく合議制でことが行われていただろう。根回しが巧みなようで実はまったく下手糞な談志は、合議制の壁にぶつかつておそろくすぐに会長職を投げ捨ててしまい、結果としては協会

を出ると同じことをしてかしたかもしれない。だが、私は一度くらい談志に会長をやらせるべきだつたと思う。やらせてみて、どうにもできなくて、自分からやめて、会長職がどれほどくだらないのかを談志にしみじみと思ひ知らせるべきだつた。落語のためのことを思えば、談志が落語協会に対してし足りないかつたことはいくつかあるが、協会が談志に対してやはりし足りなかつたこともいくつかある。皮肉ではなく、私は談志が切り盛りする落語協会というのを見てみたかつた一人である。

●ほんた・まゆさく

一九〇〇年大阪府生、落語作家。二〇二一年の「仏の遊」が国立演芸場日本舞臺佳作受賞以来、落語、漫才など新作日本舞臺の賞を毎年総ナメの業界巨匠の新進作家。主筆受賞作「玉手箱」(国立演芸場日本舞臺優秀作)、「備の葬式」(按摩の夢)、「幽霊番長」(いずれも落語協会優秀賞)など

## 私の譚大ばなし 貳拾五

八光亭春輔

### 『中村仲蔵』

芸人として深く共鳴した噺。苦勞して新しい定九郎の役作りをして舞台上がった仲蔵。しかし大向こうの声もかからず失敗かと苦しみながらも演じきる。後にその見事さ斬新さに客席は声も出なかつたことがわかる。これは師匠の林家彦六も一番好きな噺ですが、芸人はどんなことがあつても芸を投げつけてはいけなかつた、この噺で教えられました。

### 『がまの油』

入門して最初に師匠・彦六に教わつた噺。この噺は師匠の十八番のひとつで、後におかみさんから「滅多に弟子には教えない。おまえは幸せだよ」と聞かされました。海の物とも山の物ともわからない私に教えてくださった噺だけに思入れもひとしおです。

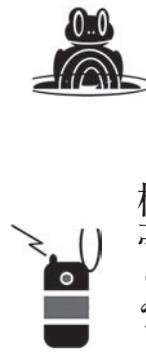
### 『文七元結』

円朝師匠から一朝師匠へ、一朝師匠から師匠・彦六へ。そして私に受け継がれた噺。最初は難しくて戸惑いましたが、独演会でかけたこの噺で文化庁芸術祭賞をいただきました。先人の師匠方の創られたよき話芸の伝承に感動するとともに、やっと師匠に恩返しできたと思えました。

# 行こみぢが

女流二ツ目の修行日乗⑭

柳亭こみぢ



電車の中、立っておでんを食べる人を見た。座席にアイマスクをして寝る人も。今は喫茶店で隣の男性が爪を切っている。その大胆さにぎょっとしたが、考えたら私は人のことを言えない。前座の頃はよく、電車の中で眉を描いていた。

修業中、私が恐れていたのは街で「こみぢさん」と声をかけられること。着物の衿は汗でびしょり、顔はすっぱん、髪はさんばら、大きな荷物に凄じい形相で小走り。時間短縮のため、いつも「歩きながら」へ電車に乗りながら、何かしていた。アイスを食べながら歩いていてお客さんに声をかけられ、「アイスが溶けるので失礼します」と言い放ち……。正に体裁無視。ネット上には「こみぢさんが駅のホームでおにぎりを食べていた」と書かれた。

師匠宅でアイロンをかけながら居眠りしたときは、そのとき寄席でトリを取っていたある師匠が夢に現れ起こして頂いた。寄席で太鼓を叩きながら居眠りしたときは、崩さずリズムを刻み続けた。へながら〇〇の板についたもの。

そんな私が「これが移動中にできればもっと時間短縮ができるの」と思っていたことがある。それは「着替え」。こればかりは公共の場ではできない。

「足袋を履くくらいはセーフかな？」という恐ろしい発想が浮かんだ頃、二ツ目に昇進。皆さん、もうどこ

で私を見かけても、声をかけて頂いて大丈夫ですよ。

●りゅうていこみぢ

社会人生活を経て、平成15年柳亭蒸路に入門。18年11月二ツ目昇進。趣味は長唄。特技は日本舞踊、吾妻流名取(吾妻春美)。落語協会野球部チームR所属。



味な脇役・話芸のきまり文句

連載第25回

## 遊び



松井高志

色街での「遊び」(上方でいう「茶屋遊び」)を描いた落語・講談は、今日では「歓楽街」はあっても「色街」が失われているため、もうほとんど過去に舞台を求めたファンタジー(あくまで男の願望に忠実に作られているので、女性の観客にはいまひとつ評判がよろしくない)といってしまうのではないかと思われる。今回はそういう「遊び」のお話によく出る文句を。

楽しみは後ろに柱前に酒左右に女ふ

ころろに金

これは「初音のお松」(四代目橘家圓喬)のマクラに引用されている。蜀山人の作である、という。男の願望をストレートに詠

んだ俚歌。「……男の楽しみもいろいろあるが、婦人と遊ぶのがその第一」というように、この歌から話が続いていく。

こうしたストーリーにおきまりの展開は、

どんな聖人君子でも、廓の金には詰まるが習い、

お月さまさえ泥田の水へ 落ちて行く世の浮き沈み

(これは二代目玉川勝太郎の浪曲「天保水滸伝」の「潮来の遊び」の部分からの引用だが、「潮来の遊び」は講談にもある)というやつである。幸いにして筆者には実体験がないが、こうした遊興にはとんでもない費用がかかるらしいのである。

赤い顔してお酒を飲んで、後の勘定で青くなる(講談「玉菊燈籠」)

廓に行ってもてれば面白い、ふられればつまらない。あたりまえだが、ではなんとかしてもてようと思つてはダメなんださうである。

もてんこすべからず、振られずこすべし

これは初代柳家小せんの「五人廻し」冒頭に引用される文句。もてようとして行くより、振られまいとして行くに限る、というのである。この文句には、なんだか遊興の心得を超えて、ビジネス格言のような趣がある。

●まい・たし

一九六〇年愛知県生、月刊誌編集者を経てフリーライター。著書に「人生に効く! 話芸のきまり文句」(平凡社新書)、「テンドク【難読漢字自習帳】(バジリコ)」、「江戸に学ぶビジネスの極意」(アスペクト)など。話芸「きまり文句」(辞典)サイトは<http://wajiridom.cocolog-nifty.com/>

「声」と「語」をタワノロードー!

今が旬の音声コンテンツ満載

<http://www.radiodays.jp>

歯に衣着せぬ発言で世相を斬る痛快トーク

●「田中宇の世界は、こう読め!」

●「小田嶋隆のグラフィカルトーク」

ミュージシャン・ロングインタビュ

●「Music Talk 大貫妙子の世界」



温もりと味のある声のエッセイ/新鮮な詩の物語り

●詩人の心の原風景(谷川俊太郎)

●「水仙」瀬戸内寂聴(朗読・有馬稲子)

●詩人の愛 金子みすゞ、中原中也、村山槐多ほか(烏丸せつ) / 正津樹



本邦初!世界初! 江戸弁で聴く落語「ゴリの魅力」

●「外套」(I・II) 入船亭扇辰

●「鼻」(I・II) 柳家三三



面白くて物凄じい、当世落語家の斬がいつぱい

三遊亭円丈、昔昔亭桃太郎、五街道雲助、古今亭志ん五、柳家小ゑん、瀧川鯉昇、柳家喜多八、柳亭市馬、桂平治、柳家喬太郎、三遊亭白鳥、橘家文左衛門、三遊亭遊雀、入船亭扇辰、古今亭菊之丞……etc.

ラジオデイズサイトにしようこそ!

※ご購入や無料ダウンロードには会員登録(無料)が必要です。



第26回オリンパスMobeex 寄席

三遊亭兼好独演会

【会場】お江戸日本橋亭

【本声銭】2800円（前売2500円）

【時間】午後6時45分開演（午後6時15分開場）

●7月14日(火)

二遊亭兼好・「ゲスト」春風亭之輔

第27回オリンパスMobeex 寄席

春風亭百栄独演会

【会場】お江戸日本橋亭

【本声銭】2800円（前売2500円）

【時間】午後6時45分開演（午後6時15分開場）

●8月18日(火)

春風亭百栄・「ゲスト」米粒写経

※「予約申込受付中」ラジオデイズURL <http://radiodays.jp>もしくは、予約受付専用電話(011-3341-1130)より、先着順です。

ラジオの街で逢いましょう

ラジオデイズでは、声と語りの魅力を求めて、深夜のラジオ番組も制作・放送しています。

お相手は、ラジオデイズプロデューサーの平川克美、菊地史彦、伊藤博、大森美知子が務めます。これまでの放送分は、ラジオデイズサイトにてストリーミング放送中。さらに、ポッドキャストでも配信中です。どうぞ真夜中の語らいに耳を傾けてみてください。

<http://www.radiodays.jp>  
インターFM 毎週日曜日の深夜23時から23時半まで。

今後の放送予定（深夜のお客様）

5月31日 小田嶋隆（コラムニスト）

6月7日 上野茂都（三味線奏者・彫刻家・大学講師）

14日 内田樹（思想家）vs 鷲田清一（哲学者） #1

21日 内田樹（思想家）vs 鷲田清一（哲学者） #2

28日 平野悠（ロフトプロジェクト代表）

皁月の落語会

第二十四回オリンパスシンクxる寄席（五月十八日）は、三遊亭遊雀独演会。ゲストは、

あの馬風会長の舎弟もとい弟子の鈴々舎馬るさん。開口一番は、春風亭ぽっぽさん。ネタは「真田小僧」だが、小憎らしい子供も可愛くなってしまふのがご愛敬。さて、いきなり遊雀師匠の登場、ネタは「熊の皮」。女房の尻に敷かれていただいた赤飯のお裾分けの礼をお屋敷からいただいた赤飯のお裾分けの礼を言いつかるが……。強い女房に頼りない男を演じさせたら遊雀師匠は当代随一と言っても過言ではありません。その可笑しさは図抜けてます。続くは馬るさん。ド派手な着物で登場。ネタはお得意「日韓同時通訳版ハンゲルがまの油」。某ピョン〇〇放送のアナウンサーががまの油売りになったら？ という近未来シミュレーション。そのド

迫力に圧倒されるなか、マクラでは「牛糞め」が始まります。二十歳になった与太郎、おじさん

の家の普請祝いに出かけるが……。パワー全開の与太郎に爆笑をとりました。トリは遊雀師匠。馬るこに負けてはいられないと初めから飛ばします。ネタは「十徳」。羽織にあらざ衣にあらず、ご隠居の着ている着物の由来を訊きにきた男と隠居の会話で笑わせませう。この日は聴き得で、さらに続いて「不動坊」。講釈師の不動坊火焔、旅先で死んで残された後家に借金が残る。その肩代わりを条件に家主は長屋の吉公と娶せる。面白くないのは長屋の独身連中。婚礼の夜に不動坊の幽霊で脅かそうという悪巧み。抱腹絶倒、突き抜けた遊雀師匠の真骨頂を見ました。

（ラジオデイズ寺和尚）



「声」と「語り」をダウンロード！  
今が旬の音声コンテンツ満載  
<http://www.radiodays.jp>

今最もブックイング困難な役者を揃えた特別対談。絶妙な話芸と目から鱗の文化対談をお届けします。

●戦後落語論

新作落語の旗手、そして教祖的存在である三遊亭円丈に、新進の落語作家本田久作がからむ。落語ファン待望の新作落語黎明期の真相話が炸裂。

三遊亭円丈



本田久作

●戦後詩人論

戦後作家の中心的存在であり鋭利な批評家でもある高橋源一郎が、生粋の詩人にして川端康成賞の小説家でもある小池昌代と現代詩について話し合う。

高橋源一郎



小池昌代

●戦後マンガ家論

脳生理学者であり京都漫画ミュージアム館長でもある養老孟司と小林秀雄賞受賞の現代思想家内田樹。マンガに一言あるこのふたりが存分に語り合う。

養老孟司



内田樹

そのほか、面白くて物凄、朗読や落語がいっぱい。ラジオデイズサイトによるこそ！

※ご購入や無料ダウンロードには会員登録（無料）が必要です。

「オリンパスシンクxる寄席」携帯用特別コンテンツ

シンクxる寄席特別コンテンツでは、シンクxる寄席やラジオデイズ落語会にご出演いただいた演者さんの情報や音源、最新のラジオデイズイベント情報が携帯電話からお楽しみいただけます。



バーコードで簡単アクセス！

左のバーコードを携帯のカメラで読み込み、無料画像認識アプリ「sync ★R」（シンクxる）をダウンロード。

もしくは

空メールを送信してアクセス！

[a@gwmj.jp](mailto:a@gwmj.jp)

ダウンロード先URLが記載されたメールが返信されてきます。

次にアプリから「sync ★R」（シンクxる）を起動、月刊ラジオデイズ各号の1ページ目『この人の声が聴きたい』の丸抜き写真、2、3ページの落語会情報内にある嘶家さんプロフィール写真を撮影して保存・送信すればOK。

※各写真の全体が入るように、ピントの合うところまで離して撮るのがスムーズにダウンロードするコツです。

シンクxる（Sync ★R）とは？

オリンパス株式会社の開発による先進の画像認識技術を活用したカメラ付携帯電話用アプリのこと。新聞・雑誌などの紙面やテレビ画面上の画像を撮影するだけで、モバイルサイトへのアクセスを可能にします。

ラジオデイズの窓から

窓を開けると爽やかな風が吹きぬけ、新緑の御苑の茂った木々が迫りくるような新緑まぶしいこの頃ですが、これからやってくるのが梅雨。「ラジオデイズ」では、室内でのんびりと過ごすことの多くなるこの季節にぴったりの聴き応え十分の対談・放談の音声コンテンツを続々リリース中です。ジャンルを越え、世代を越えた錚々たるお客様をお招きして、語り合い、語り尽くしています。

